

・なぜ英語以外の外国語を学ぶ必要があるの？

グローバル化が進展する現在、英語を母語（一番最初に習得した言語）としない人たちが互いにコミュニケーションをとるためのことばとして、英語が使われることが一般的になっています。今や英語は国際的な共通語といえるでしょう。英語はどこでも通じる便利なことばだ、だから外国語は英語だけで十分だ、とみなさんが思うのも当然かもしれません。しかし、高校までとは異なり、大学には英語の他にドイツ語や中国語などの科目があり、学部によっては必修の授業になっています。英語の重要性がますます高まる中、なぜ私たちは英語以外の外国語を学ぶ必要があるのでしょうか。

高校までは外国語といえば英語でした。外国語として英語しか習わなかったからです。学校では発音や文法の勉強はもちろんのこと、ALTなどの外国人と英語で会話をしたり、英語圏の人たちの文化なども習いました。そして、日本人とは異なる文化的背景を持った人たちの存在を、初めて深く意識しました。

しかし世界には数千の言語があり、英語はその中の一つに過ぎません。人びとの文化や考え方や生活様式なども多種多様です。英語や英米文化圏の人たちの文化や常識が絶対で、世界のどこに行っても通用すると考えるのは一面的なとらえ方です。今こそ「外国語＝英語、外国＝英米文化圏」という英語中心の考え方を修正する時です。

私たちは日本語（母語）なら自分の言いたいことや自分の気持ちが自由に表現できます。英語ではなかなかそれができません。細かなニュアンスを伝えたいけれど、伝えられないもどかしさがあります。英語が母語でない外国人も同じです。英語を母語としない人たちのことばを使うことで、お互いにより深く親しみを感じ、心を通わせあうことができます。すると自然に、彼らが持っている文化や考え方も理解し受容することができるようになります。

他の国と同様、日本でも、仕事や留学等でさまざまな国籍や異なる言語文化を持つ人びとが数多く生活するようになりました。調和を図り協調しながら共に暮らしていくには、英語だけに頼るのでは真の国際化・真のグローバル化とは言えないことに気づかなければなりません。国際共通語としての英語の価値を認めた上で、英語以外の外国語も積極的に学んで世界を多面的に捉える能力、そして、多様性を受け入れ、偏見にとらわれずに異質性を楽しめる感性を養うことが、共生の時代である今、私たちには求められているのです。

・英語以外にどんな外国語の授業があるの？

1) 法文学部・教育学部・歯学部向けの授業：「初級独語Ⅰ・Ⅱ」「初級仏語Ⅰ・Ⅱ」「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」

この3学部には学部指定の初修外国語科目として、上記の「初級」科目が開講されます。4つの初修外国語（独語・仏語・中国語・韓国語）の中から、自分の興味・関心に応じて一つを選択してください（歯学部のみ、独語または仏語の選択です）。なお、受講希望者が多数の場合は抽選で受講者数を制限することがあります。法文学部は4単位、教育学部・歯学部は2単位が卒業または進級に必要な単位数です。それぞれの授業の概要や到達目標については、シラバスや次ページ以下の各言語の紹介文、および、「学習到達目標」を見てください。

2) 全学部向けの授業：「初級独語Ⅰ・Ⅱ」「初級仏語Ⅰ・Ⅱ」「初級中国語Ⅰ・Ⅱ」「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」, 「独語入門Ⅰ・Ⅱ」「仏語入門Ⅰ・Ⅱ」「中国語入門Ⅰ・Ⅱ」「韓国語入門Ⅰ・Ⅱ」

すべての学部に対し選択必修科目として、1年前期に各初修外国語の「初級Ⅰ」と「入門Ⅰ」が、1年後期に各初修外国語の「初級Ⅱ」と「入門Ⅱ」、および、「初級Ⅰ」と「入門Ⅰ」が開講されます。それぞれの授業の概要や到達目標については、シラバスや次ページ以下の各言語の紹介文、および、「学習到達目標」を見てください。

独語

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・ルクセンブルク・リヒテンシュタインの公用語で、ヨーロッパではロシア語の次に使用人口の多い言語です。英語と同じ系統の言語で、インド・ヨーロッパ語族の中のゲルマン語に属します。そのため、発音や綴りが英語とよく似ている単語が数多くあります。

ドイツ語を表記するアルファベットは a から z までの 26 文字、点々がついている ä, ö, ü の 3 文字、そして「エス・ツェット」と呼ばれる文字 ß の計 30 文字です。発音はそれほど難しくありません。スペリングと音の対応関係をいくらか覚えてしまえば、初めて見る単語でも簡単にほぼ例外なく、正しく読むことができます。ただ、文法はちょっとやっかいで、単語がいろいろな形に変化します。最初はとても面倒に思うかもしれませんが、はじめのうちはどんなことでも難しいものです[これをドイツ語では, Aller Anfang ist schwer. (アラ-すべての アンファンク・はじめは イスト・～です シュヴェーア・難しい) と言います]。

さて、ドイツといったら何を連想しますか。車の好きな人ならベンツ、ポルシェ、食に関心があればビールやワイン、ソーセージなど、スポーツではサッカー、その他ベートーベンやバッハ、グリム童話などでしょうか。今ではスマホやパソコンで、いつでもどこでもドイツに関する情報を手に入れることができます。ドイツ語がわからなくても動画や画像だけで十分、という人がいるかもしれません。でも、何が書いてあるのか、どんなことを言っているのかわかったほうが絶対いいですね。その方が興味や関心ももっと深まるはずですよ。「好きこそものの上手なれ」ということわざがあります。自分の好きなことをきっかけにドイツ語を学び始めたら、きっと上達も早く、そしてドイツ語も好きになることでしょう。

ドイツ語にも「英検」と同じような「ドイツ語技能検定試験」(略して「独検」)があります。年に2回実施され、6月下旬の夏試験は鹿大でも開催されます(ただし、夏試験の鹿大での実施は令和8年度までで、これ以降は12月上旬の冬試験と同じく他県での受検となります)。「独検」の情報は、<http://www.dokken.or.jp/> または学内のポスターやパンフレットで確認してください。「独検」の他に「ゲーテ・インスティトゥート検定試験」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験」「テスト・ダフ(TestDaF)」という検定試験もあります。これら4つの検定試験は、ある級位に合格して申請すると、「初級独語」の単位が認定されます。詳しくは「共通教育履修案内」を見てください。

■ **学部指定および単位数**：法文学部は4単位必修、教育学部・歯学部は2単位必修です。これらの学部では、指定された数の単位を取らないと、卒業または進級することができません。

■ **履修クラスの特徴(初級独語Ⅰ・初級独語Ⅱ)**：クラスは学部・学科で分かれています。クラスによっては、ネイティブが担当する授業があります。ネイティブは日本語で授業を行いますので、心配しなくても大丈夫です。

□ **初級独語Ⅰ**：週2回の授業をもって2単位です。「初級独語Ⅰ」では、ドイツ語の初歩的な文法と基本的な語彙の習得を目指します。「読む・書く・聞く・話す」能力を育てるための基礎となる大事な授業です。初めて習う言語の場合、特に学習の積み重ねが重要です。欠席をすると授業についていけなくなりますので、注意してください。

□ **初級独語Ⅱ**：週2回の授業をもって2単位です。「初級独語Ⅱ」は「初級独語Ⅰ」の継続授業です。「初級独語Ⅰ」と「初級独語Ⅱ」で、ドイツ語の基礎を一通り習得することになります。

□ **中級独語A**：「中級独語A」は2年前期(第3期)に開講されます。週1回の授業をもって1単位です。「初級独語Ⅰ」・「初級独語Ⅱ」の計4単位を修得している学生のみ履修可能です。「中級独語A」は「初級独語Ⅰ」・「初級独語Ⅱ」で習得した語彙や文法知識等を基礎に、ドイツ語を実際に運用する能力を高める発展的授業です。

■ **全学部向けの授業**：すべての学部に対して1年前期に「初級独語Ⅰ」・「独語入門Ⅰ」、1年後期に「初級独語Ⅱ」・「独語入門Ⅱ」・「初級独語Ⅰ」・「独語入門Ⅰ」が開講されます。「初級独語Ⅰ」と「初級独語Ⅱ」については上記の欄を見てください。「独語入門Ⅰ」および「独語入門Ⅱ」は週1回の授業で1単位です。「入門」の授業では、挨拶表現・日常の簡単なフレーズ・初歩的な文法を学びます。また折に触れてドイツ語圏の情報も紹介していきます。「独語入門Ⅱ」は「独語入門Ⅰ」の継続授業のため、原則として「独語入門Ⅰ」の単位を修得した学生のみ「独語入門Ⅱ」を受講することができます。なお、法文学部・教育学部・歯学部の学生のうち、学部指定の初修外国語として「初級独語」を選択している人、または、単位をすでに修得している人は「独語入門」を受けることができません。

独語の学習到達目標

科目・期	単語数	学習到達目標	学習事項	レベル
初級独語 I 1 年前期 および 1 年後期	800 ～ 1000 語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。 ・家族、学校、職業、買い物など、身近な話題に関する簡単な会話ができる。 ・短い文章や手紙などの内容が理解できる。比較的簡単な文章の内容を聞き、質問に答え、重要な語句や数字を書き取ることができる。 	アルファベット、数字、あいさつ等の日常表現、動詞の現在人称変化、名詞の性と冠詞類の格変化、話法の助動詞の現在人称変化と用法、分離動詞、主文と副文、動詞の命令形	独検 4 級 (英検 4 級、CEFR の A1 と A 2 の間に相当)
初級独語 II 1 年後期	1800 ～ 2000 語	<ul style="list-style-type: none"> ・初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。 ・簡単な内容のコラムや記事などの文章を読むことができる。 ・短い文章の内容を聞き、簡単な質問に答え、重要な語句や数字を書き取ることができる。 ・身近な話題について、定型表現を活用して、自分の考えや気持ちを伝えることができる。 	動詞の三基本形、動詞の過去人称変化、完了構文、形容詞の格変化、関係文、zu 不定詞句、受動文、接続法 I 式・II 式の人称変化と用法	独検 3 級 (英検 3 級、CEFR の A 2 に相当)
独語入門 I 1 年前期 および 1 年後期	400 ～ 500 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏の地誌(地理・自然・人々の生活・文化など)について理解し、簡単に説明することができる。 ・あいさつ表現を場面に応じて適切に使える。自分や他人を簡単に紹介することができる。看板・掲示・パンフレット等の短い表現の内容が理解できる。必要に応じて簡単な数字やキーワードを書き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏の地理・自然・日常生活(食事、住居、余暇、行事等)・ポップカルチャー等 ・アルファベット、数字、あいさつ等の日常表現、動詞の現在人称変化、名詞の性と冠詞類の格変化、平叙文・疑問文の語順、 	独検 5 級 (英検 5 級、CEFR の A1 に相当)
独語入門 II 1 年後期	800 ～ 1000 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏の現代事情や簡単な歴史などについて理解し、簡単に説明することができる。 ・基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。 ・短い文章や手紙などの内容が理解できる。比較的簡単な文章の内容を聞き、質問に答え、重要な語句や数字を書き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏の産業・交通・政治・教育・芸術・歴史等 ・話法の助動詞の現在人称変化と用法、分離動詞、主文と副文、動詞の命令形 	独検 4 級 (英検 4 級、CEFR の A1 と A 2 の間に相当)

仏語

世界の色々な情報が絶えず入ってきている現在の日本では、フランス語はまだ文化や学問、ファッションや料理・スイーツのジャンルでは根強いものの、以前ほどは憧れられたり、目立ったりする言語ではなくなってきました。それでも今では、フランスを意識しないくらい身近なところにフランス語が溶け込むようになってきているようです。皆さんの住むマンションにも「メゾン」「プレジール」「グランパレ」などの名前がついているところがあるかもしれません。化粧品ブランドの「マキアージュ」、案内人をさす「コンシエルジュ」、市場を意味する「マルシェ」、服の「ジレ」なんかもいつの間にか私達の生活の中に定着しつつあります。鹿児島市に来てびっくりしたのはフランス料理店やケーキ屋（「ケーキ屋」を意味する「パティスリー」もフランス語）は当然として、パン屋をはじめ色々な店にフランス語の名前が多いこと。そういえば1文目の「ジャンル」も実はフランス語です。皆さんも日常会話で使っている「デジャヴュ」も「デビュー」も「アンコール」も「アンサンブル」も「デッサン」も「グランプリ」も「シュール」、も実はフランス語というと、私たちの日常にそれほどまでフランス語が浸透しているのかとびっくりしますよね。

翻って世界を見ると、例えばオリンピックでの表彰式では、開催国の言葉や英語とともにフランス語のアナウンスを聞くことができるでしょう。また、国連での公式印刷物は、少なくとも英語とフランス語で書かれることが義務付けられており、フランス語は国際語として大きな影響力があります（ヨーロッパの外交条約で英語が使われるようになったのはわずか100年前です。それ以前はフランス語）。母語あるいは公用語としてフランス語が使われているところは、何と世界33カ国と3地域にもおよびます。フランス語はフランスでしか使われていないのではなく、日本や世界において、店の名前や商品名から日常用語として、そして母語から国際語として、いろいろな形で使われている言語なのです。英語ももちろん大事ですが、フランス語を学んで世界を見ることで、日本語と英語だけの世界では見えなかった新しい世界が一気に広がるのです。

ただ、「フランス語は読み方が難しい」とか「発音が難しい」というイメージもありますよね。恐らく皆さんの間ではそんな噂を親御さんや先輩から聞いたことがあるのではないのでしょうか。でも実は、読みに関しては英語よりもはるかに規則は少ないのです。いくつか独自の規則さえ理解すれば、あとは初めての単語でもほぼ読めるようになります。個別対応で学んでいた英語や漢字の読みよりはるかに楽ですよ。発音に関しては・・・日本人には難しい点は確かにいくつかあります。そこで鹿児島大学では、例えば水泳教室でゆっくり泳ぎ方を習うように、フランス語の発音を口の運動として、理論的に、ゆっくり教えます。フランス語の発音をゆっくり練習することで、フランス語の発音がきれいになるだけでなく、英語や日本語の発音にもいい影響が出るようになるでしょう。実際、フランス語のou（日本語のウに近い発音）の音を日本語の歌に応用したら、すごくきれいに歌が聞こえるようになった！という学生さんの報告もありました。あと、口の筋肉が刺激されるので口角も上がり美顔効果も期待できるかもしれません（これは今のところ報告待ちですが・・・）。

このような感じで鹿児島大学では、単にフランス語を学ぶだけでなく、フランス語を学ぶこと自体を皆さんの日常の色々なことや皆さんの未来に応用できるよう、ゆっくり楽しく学べる環境を作っています。それでは、教室でお会いしましょう。

■ 学部指定および単位数

法文学部は4単位必修、教育学部・歯学部は2単位必修です。これらの学部では、指定された数の単位を取らないと、卒業または進級することができません。これ以外の学部の学生で仏語を学習したい人は、1年前期・後期にそれぞれ全学部向けの「初級仏語Ⅰ」や「仏語入門Ⅰ」が開講されるので、この科目を受講してください。

■ 履修クラス

クラスは学部・学科で分かれています。該当する学部・学科のクラスを受講してください。

□初級仏語Ⅰ

仏語の基礎を学びます。週2回の授業をもって2単位となります。1単位ごとに分割はできません。内容は、フランス語の初級文法の習得が中心となりますが、綴りとその読みを徹底的に習得し、そして発音、聞き取り、コミュニケーションにも十分に時間を割きます。なお、この授業と「初級仏語Ⅱ」は「実用仏語技能検定」、「DELTA」、「TCF」の所定の基準をクリアすると単位が認定されます。詳細は『履修案内』を見てください。

□初級仏語Ⅱ

「初級仏語Ⅰ」の継続です。Ⅰと同じく週2回の授業をもって2単位となります。1単位ごとに分割はできません。内容は、フランス語の初級文法の習得を「初級仏語Ⅰ」から継続しますが、レストランでのやり取り、身の回りの物の紹介など、実践的な会話も取り入れてコミュニケーションにも十分に時間を割きます。

□ 中級仏語A・B

週1回の授業で1単位です。「初級仏語Ⅰ」、「初級仏語Ⅱ」の履修を前提に発展的な学習をします。内容は、フランス語の初級・中級文法の習得を念頭に置きつつ、受講者の関心に応じてテーマを設定します。

■ **全学部向けの授業**：すべての学部に対して1年前期に「初級仏語Ⅰ」・「仏語入門Ⅰ」、1年後期に「初級仏語Ⅱ」・「仏語入門Ⅱ」・「初級仏語Ⅰ」・「仏語入門Ⅰ」が開講されます。「初級仏Ⅰ」と「初級仏語Ⅱ」については上記の欄を見てください。「仏語入門Ⅰ」および「仏語入門Ⅱ」は週1回の授業で1単位です。「入門」の授業では、挨拶表現・日常の簡単なフレーズ・初歩的な文法を学びます。また折に触れて仏語圏の文化も紹介していきます。「仏語入門Ⅱ」は「仏語入門Ⅰ」の継続授業のため、原則として「仏語入門Ⅰ」の単位を修得した学生のみ「仏語入門Ⅱ」を受講することができます。なお、法文学部・教育学部・歯学部の学生のうち、学部指定の初修外国語として「初級仏語」を選択している人、または、単位をすでに修得している人は「仏語入門」を受けることができません。

仏語の学習到達目標

	単語数	学習到達目標	学習事項	レベル
初級仏語Ⅰ 1年前期および後期	550語	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。 ・初歩的な単文の構成と文意の理解と、短い初歩的な対話の理解ができる。 ・挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベ、数字、挨拶や自己紹介などの簡単な日常表現、動詞の変化（直説法現在、近接未来、近接過去、命令法）、名詞の性と冠詞の変化、関係代名詞文 	仏検 5 級 (英検 5 級に相当)
初級仏語Ⅱ 1年後期	950語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。 ・基礎的な文の聞き分けができる。また、日常使われる基礎的応答表現の理解ができ、簡単な手紙を読解できる。レストランやショッピング。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接現在形以外の動詞の活用（複合過去、過去、単純未来）、代名詞、条件法 など 	仏検 4 級 (英検 4 級、CFER の A 1 に相当)
仏語入門Ⅰ 1年前期および後期	300語	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語圏について、その特徴的文化や生活様式を理解し、説明することができる。 ・挨拶・自己紹介などが適切にできる。 ・パンフレットや看板などの意味が理解できる。 ・数字や時間の表現が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベ、数字、挨拶や自己紹介などの簡単な日常表現、直説法現在の動詞の変化、名詞の性と冠詞 ・ポップカルチャー、文化一般（食事、音楽、スポーツ、行事など） 	
仏語入門Ⅱ 1年後期	600語	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。 ・フランス語圏の現代事情や歴史などについて理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞（近接未来、近接過去）。関係代名詞。 ・仏検 5 級に向けたレッスン、練習問題（リスニングを主眼として） 	仏検 5 級 (英検 4 級に相当)

中国語

現在中国の人口は14億人あまりとされています。単純計算すれば、なんと世界人口の約5分の1が中国語圏の人間ということになります。英語という国際言語の影に隠れてはいますが、使用人口の数の多さを考えれば決してあなどれない、それが中国語です。

さて、鹿児島大学の共通教育で学習する中国語は、このうち使用エリアの最も広範な北方方言をベースにできあがった「普通話」（プートンホァ）と呼ばれる中国における共通語です。（巷間よく「北京語」と呼ばれるのですが、実は「北京語」はこの北方方言の中に含まれ、北京限定で使用されている極めてローカルな言語であり、厳密な意味で共通語ではありません。）

一口に中国語といっても、大別して7つの方言に区別されます。先にあげた北方方言もその一つに数えられますが、この方言を生活言語とする人々と、広東語（粵方言）圏、例えば広州、香港で生まれ育った人々が、それぞれの言語でコミュニケーションを図ろうとしても、絶対に通じません。上海語（呉方言）、福建語（閩方言）やその他の方言も同様です。中国語のカテゴリーにありながら、それぞれの方言は互いに「ほとんど外国語」といっても過言ではないのです。そこに、中国が一つの統一的な「共通語」を必要とした理由があります。それから、案外意識されることが少ないのですが、実は中国が56の民族からなる多民族国家であるということ、これも共通語を必要とする大きな理由の一つと言えます。非漢族55民族の中には、すでに漢化されて固有の言語や文字を持たなくなってしまう人々もいます。その一方で、モンゴル、チベット、ウイグル等の各民族はそれぞれの言語と文字を今に伝え、日常はそれによって生活しています。しかし、人口の9割を漢族が占める中国においては、「普通話」を身につけることが彼等非漢族にとっても生きていく上で必要不可欠なことなのです。

というわけで、外国人であるわたしたちも、この「普通話」を勉強しさえすれば、中国の人々と十分にコミュニケーションをとることができるわけです。

ただ、ここで一つ注意してほしいことがあります。それは、わたしたちが漢字を知っているということが、実は中国語学習においては「両刃の剣」にあるということです。つまり、こういうことになります。

「漢字を知っている」 → 「文を見て分かってしまう（あるいは、分かったような錯覚に陥る）」 → 「（´ー`）満足」

→ 「学習終了」

これでは、「読む・書く・聞く・話す」という言語の4技能を修得できないばかりか、学習が極めて中途半端に終わってしまうことにもなりかねません。この落とし穴にはまってしまう学生諸君が少なくないのは実に残念なことです。これもひとえにわたしたち日本人が「漢字を知っている」ことから生まれる油断のなせるわざと言えるでしょう。

「中国語は外国語である」という実にあたりまえの事実を忘れずに学習に取り組んでいきましょう。

■ 学部指定および単位数

法文学部は4単位必修、教育学部は2単位必修です。これらの学部では、指定された数の単位を取らないと、卒業または進級することができません。これ以外の学部の学生で中国語を学習したい人は、1年前期・後期にそれぞれ全学部向けの「初級中国語Ⅰ」や「中国語入門Ⅰ」が開講されるので、この科目を受講してください。

■ 履修クラス

クラスは学部・学科で分かれています。該当する学部・学科のクラスを受講してください。

□ 初級中国語Ⅰ

週2回の授業をもって2単位となります。1単位ごとに分割はできません。初級中国語Ⅰでは、まず中国語の基本的な発音を、中国語ローマ字を使って学習します。漢字を中国語の発音で読むことができるようになること。これが授業開始1ヶ月の目標となります。一通り発音の知識を身につけた後は、テキストに従って初歩的な文法と基本的な語彙の習得を目指します。外国語学習の目標は「読む・書く・聞く・話す」力の涵養ですが、特に、「聞く・話す」ことに重点をおいて進めていきます。詳しくは、担当教員のシラバスをご覧ください。

□ 初級中国語Ⅱ

初級中国語Ⅰと同様に週2回2単位の授業が開かれます。「Ⅰ」で習得した事柄をベースに、さらに発展的な学習により中国語能力の増進を図ります。詳しくは、担当教員のシラバスをご覧ください。

□ 中級中国語A・B

この授業はA・Bどちらも自由に受講することができ、初級の授業で習得した発音、語彙、文法知識を基礎に、中国語を実際に運用する能力を高める発展的授業です。

詳しくは担当教員がシラバスに書いていますので、それを参照してください。

■ **全学部向けの授業**：すべての学部に対して1年前期に「初級中国語Ⅰ」・「中国語入門Ⅰ」、1年後期に「初級中国語Ⅱ」・「中国語入門Ⅱ」・「初級中国語Ⅰ」・「中国語入門Ⅰ」が開講されます。「初級中国Ⅰ」と「初級中国語Ⅱ」については上記の欄を見てください。「中国語入門Ⅰ」および「中国語入門Ⅱ」は週1回の授業で1単位です。「入門」の授業では、挨拶表現・日常の簡単なフレーズ・初歩的な文法を学びます。また折に触れて中国語圏の文化も紹介していきます。「中国語入門Ⅱ」は「中国語入門Ⅰ」の継続授業のため、原則として「中国語入門Ⅰ」の単位を修得した学生のみ「中国語入門Ⅱ」を受講することができます。なお、法文学部・教育学部の学生のうち、学部指定の初修外国語として「初級中国語」を選択している人、または、単位をすでに修得している人は「中国語入門」を受けることができません。

中国語の学習到達目標

	単語数	学習到達目標	学習事項	レベル
初級中国語Ⅰ (1年前期または後期)	300 ~ 500 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を紹介することができ、姓名、年齢、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物、趣味、能力などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。 	ピンイン、挨拶、個人的情報の紹介(国籍、姓名、年齢、学年、住所、家庭、趣味、能力等)、感謝・謝罪・歓迎、数量、時間(時、年月日、曜日等)、簡単な描写(天気、大きさ、多さ、方位、気持ち等)、簡単な質問や受け答えの表現(買い物、交通等)	HSK1 ~ 2 級 (中国語検定準4級、CEFRのA1に相当)
初級中国語Ⅱ (1年後期)	600 ~ 1000 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、学校など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ・簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。 	個人的情報の紹介(性別、呼称、外見、性格等)、数量・順序、時間(現在、過去、未来等)、簡単な描写(方位、正誤、感情、色、季節等)、簡単な質問や受け答えの表現(買い物、看護、運動、娯楽等)、要求・請求、感情・見解、提案、比較・選択、程度・頻度	HSK3 級 (中国語検定4級、CEFRのA2に相当)
中国語入門Ⅰ (1年前期または後期)	150 ~ 250 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。 ・中国語の学習を通して、その背景にある文化や生活様式を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン、挨拶、個人的情報の紹介(国籍、姓名、年齢、学年、住所等)、感謝・謝罪、数量、時間(時、年月日、曜日等) ・中国語圏の文化や生活様式 	/
中国語入門Ⅱ (1年後期)	300 ~ 500 語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他人を紹介することができ、住んでいる場所、持ち物、趣味、能力などの身近な話題について、ごく簡単なやりとりができる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。 ・中国語の学習を通して、その背景にある文化や社会事情を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的情報の紹介(家庭、趣味、能力等)、簡単な描写(天気、大きさ、多さ、方位、気持ち等)、簡単な質問や受け答えの表現(買い物、交通等)、比較 ・中国語圏の文化や社会事情 	HSK1 ~ 2 級 (中国語検定準4級、CEFRのA1に相当)

韓国語

韓国語は、朝鮮半島に住む約7千万人が使っている言葉です。また、日本、中国、北米などの海外のコリアン・コミュニティーでも韓国語が使われています。韓国語は日本語によく似ている言語ですから、日本語を母語とする人にとっては非常に学びやすい言語です。語順は日本語と同じで、助詞の使い方と語尾の変化もよく似ています。漢字が語源の単語も非常に多く、単語、特に専門用語は覚えやすいです。また、韓国語は日本語と同じく、敬語や丁寧語も発達していますので、文化的にも親しみのある言語です。

韓国語を学ぶ楽しみの一つはハングル文字です。ハングル文字は世宗（セジョン）大王が推進した韓国語の独自の文字を開発するプロジェクトの成果として1446年に公布されました。ハングル文字は世界の文字で唯一、発音するときの口の形を文字の形に反映させた科学的でユニークな文字です。19世紀末までは漢文が多く使用されましたが、20世紀に入り、ハングル文字が主流になり、現在朝鮮半島のほとんどの出版物はハングルのみで書かれています。

最大の楽しみはやはり韓国語のさまざまな使い道にあります。韓国は日本に一番近い外国ですので、韓国語の学習を目的とした旅行、語学研修、異文化体験は容易にできます。また、焼きもの、お茶、グルメなどの伝統文化から、「ネット文化」、「韓流」などの現代大衆文化に至るまで、趣味の生活において、韓国語は楽しく使えます。教養の面においても、日本文化形成に多大な影響を与えた朝鮮半島の文化をもっと深く理解するために、韓国語は役に立ち、同時に日本文化に対する理解も深められます。また、韓国と北朝鮮の目から見た20世紀の歴史、現在の朝鮮半島情勢、そして在日コリアンの歴史を広い視野から理解するには韓国語が必要です。

将来、仕事においても韓国語は役に立つ言葉です。日本の多くの公的機関、会社などは韓国と知的交流や学術研究を実施していますので、韓国語ができる人材は歓迎されています。歴史、哲学、芸術などの朝鮮半島と日本との関係が深い分野以外にも、教育学、経済学、環境学、情報工学などのさまざまな学術研究のために韓国語が役に立ちます。また、日本を訪れる外国人の中で、最も人数の多い韓国人とさまざま仕事の場面で韓国語を使う機会は多くあります。

韓国語プログラムは鹿児島大学の共通教育の教育目標で書かれたように、「外国語によるコミュニケーション能力を育成し、異文化に対する理解を深め、相互理解と相互協力を推進します」という目標を達成するため、明確な語学力の目標を提示し、体系的なカリキュラムに従いながら、朝鮮半島の豊かな文化について理解を深めることを目指しています。

■ 学部指定および単位数

法文学部は4単位必修、教育学部は2単位必修です。これらの学部では、指定された数の単位を取らないと、卒業または進級することができません。これ以外の学部の学生で韓国語を学習したい人は、1年前期・後期にそれぞれ全学部向けの「初級韓国語Ⅰ」や「韓国語入門Ⅰ」が開講されるので、この科目を受講してください。

■ 履修クラス

クラスは学部・学科で分かれています。該当する学部・学科のクラスを受講してください。

□ 初級韓国語Ⅰ

「ハングルを習い始めた初歩の段階。ハングルのごく短い文を読み、書き、聞きとることができる。決まり文句としての簡単な挨拶ができる。」という「ハングル能力検定」5級レベルよりも多少高い学習目標を目指します。「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の四技能をバランスよく養いながら、韓国・朝鮮の伝統・現代文化について理解を深めます。

□ 初級韓国語Ⅱ

「初級韓国語Ⅰ」の続きとして、「基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、聞きとることができる。初歩的な語句で簡単な挨拶や紹介ができ、ある程度辞書を使うことができる。基礎的な単語で短い文章を書くことができる。」という「ハングル能力検定」4級レベルよりも多少高い学習目標を目指します。「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の四技能をバランスよく養いながら、韓国語の基礎文法の完成を目指します。また、学生が既に知っている漢字の韓国語の発音を学ぶことにより、語彙力をさらに向上させます。

□ 中級韓国語A・B

初級韓国語Ⅰ、初級韓国語Ⅱを引き継ぎ、さらに発展的に学習します。詳しくは担当教員がシラバスに書いていますので、それを参照してください。

■ **全学部向けの授業**：すべての学部に対して1年前期に「初級韓国語Ⅰ」・「韓国語入門Ⅰ」，1年後期に「初級韓国語Ⅱ」・「韓国語入門Ⅱ」・「初級韓国語Ⅰ」・「韓国語入門Ⅰ」が開講されます。「初級韓国Ⅰ」と「初級韓国語Ⅱ」については上記の欄を見てください。「韓国語入門Ⅰ」および「韓国語入門Ⅱ」は週1回の授業で1単位です。「入門」の授業では，挨拶表現・日常の簡単なフレーズ・初歩的な文法を学びます。また折に触れて韓国語圏の文化も紹介していきます。「韓国語入門Ⅱ」は「韓国語入門Ⅰ」の継続授業のため，原則として「韓国語入門Ⅰ」の単位を修得した学生のみ「韓国語入門Ⅱ」を受講することができます。なお，法文学部・教育学部の学生のうち，学部指定の初修外国語として「初級韓国語」を選択している人，または，単位をすでに修得している人は「韓国語入門」を受けることができません。

韓国語の学習到達目標

科目名	単語数	学習到達目標	学習事項	レベル
初級韓国語Ⅰ (1年前期 または後期)	600 語程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングルを正しく確実に読み書きできるようにする。 ・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介ができるようにする。 ・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読みし書けるようにする。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化を理解する。 	ハングルの構造, 母音字母, 子音字母, 平音・激音・濃音, 終声, 音声規則, ハムニダ体, 助詞, ヘヨ体, 正則用言の活用, 漢数詞, 固有数詞, 否定文, 勧誘形, 韓国事情・韓国文化	ハングル能力 検定試験5級 (CEFRのA1に 相当)
初級韓国語Ⅱ (1年後期)	1300 語程度	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法概念を理解する。 ・変則用言を含むすべての用言に関して主要な活用形を作り使えるようにする。 ・日常の基本的な会話ができるようにする。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化を理解する。 	敬語, 命令形, 不能表現, 願望表現, 受益表現, 過去形, 詠嘆形, 連体形(現在・未来・過去・回想), 変則用言の活用, ぞんざい体, 韓国事情・韓国文化	ハングル能力 検定試験4級 (CEFRのA2に 相当)
韓国語入門Ⅰ (1年前期 または後期)	250 語程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングルが正しく確実に読み書きできるようにする。 ・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介ができるようにする。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化を理解する。 	ハングルの構造, 挨拶表現や決まり文句, 母音字母, 子音字母, 平音・激音・濃音, 終声, 発音規則, ハムニダ体, 助詞, 韓国事情・韓国文化	
韓国語入門Ⅱ (1年後期)	600 語程度	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読みし書けるようにする。 ・日常よく使われる簡単な単語や文を使えるようにする。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化を理解する。 	ヘヨ体, 正則用言の活用, 漢数詞, 固有数詞, 否定文, 勧誘形, 韓国事情・韓国文化	ハングル能力 検定試験5級 (CEFRのA1に 相当)